

# 金沢子どもスタディサポート 活動報告 2018



金沢大学 人間社会学域 国際学類  
教授 深澤 のぞみ  
deepdeep\_stream@yahoo.co.jp

## 1. 金沢子どもスタディサポートとは

活動目的: 金沢市在住の外国人の子どもたち<sup>1</sup>の日本語および教科支援を行い、子どもたちの日本の学校への適応と進学準備等を促すことを目指す。また、日本人学生が、外国にルーツを持つ子どもたちに対する活動を通して、直に、多文化共生社会を目指す日本における外国人の問題や、必要な日本語教育や日本語支援についての理解を深めるようになることを目指す。

活動期間: 2009 年秋から活動を開始し、現在に至る。

活動メンバー: 主に金沢大学の学生国際学類の学生や大学院国際学専攻の学生が中心で、外国人に対する日本語教育を専攻する学生などが活動を行っている。国際学類教員のほか、大人サポーターも活動に参加し、学生への指導やアドバイスをを行う。

活動場所と時間: 毎週実施。場所は、石川県 NPO 活動支援センター「あいむ」(金沢市香林坊 2 丁目 4 番 30 号 香林坊ラモーダ 7 階) の会議室を予約して、使用している。

連携団体: 金沢大学、石川県国際交流協会、金沢国際交流財団、多文化共生研究会など

シンボルマーク: 加賀藩主だった前田氏の家紋でもある「梅鉢紋(うめばちもん)」のデザインを用いている。真ん中に子ども、そしてまわりに保護者、学生ボランティア、学校、支援者、行政がネットワークを作っている様子を描いている。

## 2. 活動概要(数値は、2018 年 4 月～2018 年 3 月 16 日分までの集計数を基に記載)

### 1) 活動回数 46 回

---

<sup>1</sup> 便宜上、外国人の子どもたちという表現を使うが、必ずしも、外国籍であることを意味しない。

## 2) 参加人数

① 支援生徒 9人, ボランティア学生 8人 (国際学類, 学校教育学類, 医学類, 人文学類), 大人サポーター 2人

② 延べ人数: 支援生徒 144人, ボランティア学生 90人, 大人サポーター 71人

3. 平均人数: 支援生徒 3.1人, ボランティア学生 2人, 大人サポーター1.5人

## 4. 活動内容

### 1) 進学支援

日本以外の母国で中学校を卒業して, 日本の高校への進学を希望している子どもに対して, 日本語指導と進学に関する情報提供, および教科指導を行った。外国人の子どもが高校進学をするには, 大きい困難が伴う。義務教育と異なり, 高校では必ず入学試験が実施されること, 出願手続きが複雑であること, そして, 志望校を決めるための情報が多くないことである。そのために, まず入学試験に対応できるレベルの日本語力を身につけさせることが必要となり, さらに志望校を絞り込むための手助けをした上で, 入学試験対策の教科支援や面接の練習なども行う。

### 2) 学校の学習支援

まず高校生については, 希望する高校への入学ができたとしても, 高校での学習はかなり難易度が高いため, 日々の学習についていくための支援を引き続き行っている。特に国語については, 高校の教科書で扱われるものは, 成人向けの評論や小説などが多いため, 内容を正確に理解するためには, 支援が必要となる。また, 大学進学も視野に入れて, 教科の支援をするだけでなく, 広く社会や世界の状況を理解した上で, 志望大学を決めることが必要となり, そのための支援も行う。

小学生や中学生については, 教科書の理解や宿題を共に行うことを中心に支援を行った。両親の母語が日本語ではない子どもや, 外国からの帰国子女を対象に支援している。これらのケースでは, 基本的な学習用語や, 母語話者にとってはあたり

まえの文化的な事項などが理解できていないこともあり、必要に応じて子どもの母語や得意な言葉での翻訳も行いながら、支援している。

### 3) 支援方法に関する調査研究

今年度は、外国人や帰国子女の子どもたちに共通して難易度の高い項目である漢字についての効果的な支援方法についての調査研究を実施した。実際の漢字学習を支援するなかで、漢字を意味を考えずにただひたすら書き練習をするのみでなかなか定着しない子どもたちがいるということ、またそのような場合、日本の子ども向けの漢字ドリルなどは、あまり効果を持たないということに気づいたためである。

そこで、日本の学校教育の中での漢字の扱われ方と、外国人の子どもたちに対する漢字の指導との関係を検討し、実際に使用する教材の試作版を作成した。まだ試用調査などは行っておらず、今後の課題となるが、来年度以降も、このような調査を行った上で、独自の教材を作成することを試みたいと考えている。

## 5. ボランティア学生

ボランティア学生の募集については、毎年学期初めに説明会を開催し、金沢子どもスタディサポートおよび子どもスタディサポート小松や杜の里小学校での宿題支援ボランティア「たけのこ」の活動を紹介し、学生を募っている。国際学類の学生だけでなく、外国人児童生徒や帰国子女に対する教育に関心を持つ学類生や大学院生がボランティアとして参加している。また自らが帰国子女であった学生や、親の都合で来日して日本で教育を受けた外国につながりを持つ学生も、ボランティアとして活動しているのが特徴である。

さらに、金沢子どもスタディサポートでは、多文化共生社会の実現に関心を持つ大人サポーターも活動に参加している。卒業や留学などで長期間の活動の継続が難しい学生とは違った協力をしてもらえること、そして大人サポーターのそれぞれの職業経験などから学生ボランティアに対して助言をしてもらえることも、大きい強みである。

## 6. 今後の展望

外国籍の子どもの教育には、様々な問題が複雑に絡み合うことが多く、関係する機関や人々の連携が必要となる。金沢子どもスタディサポートの活動に対して、金沢大学をはじめ、金沢国際交流財団や石川県国際交流協会とも連携を取り、情報の共有や交換をしながら活動を行っている。本年度は、活動の経済的な補助を金沢市の「学都金沢地域づくり補助金」から受けることができ、ボランティアの交通費や調査研究のための図書費購入などに部分的に充てることができた。また、活動場所として、香林坊にある石川県 NPO 支援センター「あいむ」を無料で使用できることは、街中で通いやすく、静かで落ち着ける場所の確保という点でありがたいことと感じている。

ただし、石川県は外国人児童生徒の高校受験に関しては、他県と異なり、特別措置などが全く行われていない地域である。毎年「都道府県立高校における外国人生徒・中国帰国生徒等に対する 2018 年高校入試の概要」という調査<sup>2</sup>があるが、これによると、全国の都道府県で、何の措置も行われていないのは、石川県と高知県だけであることがわかる。石川県、あるいは金沢市にも、問題を抱えた外国人児童生徒がいないわけではなく、このスタディサポートの活動を通して、他に頼るところがない子どもたちが多くいることを痛感している。それにもかかわらず、特別措置が全く現在も行われていないというのは、特筆すべきことであろう。

2018 年の改定入管法の施行にともない、これまでより多くの外国人が日本に居住するようになることが予想される。それに対して、「外国人材の受入れ・共生のための総合的対応策検討会」からは必要となる対応策が公開されている<sup>3</sup>。この中には、「子供の教育の充実」という項目が設けられており、「外国人の児童生徒が日本語を用いて学校生活を営む

---

<sup>2</sup>この調査は、2001 年から中国帰国者定着促進センターが実施してきたが、統廃合に伴い、各地の有志によって継続がされている。

[https://www.kikokusha-](https://www.kikokusha-center.or.jp/shien_joho/shingaku/kokonyushi/other/2017/2017matome%20.pdf)

[center.or.jp/shien\\_joho/shingaku/kokonyushi/other/2017/2017matome%20.pdf](https://www.kikokusha-center.or.jp/shien_joho/shingaku/kokonyushi/other/2017/2017matome%20.pdf)

<sup>3</sup> <http://www.moj.go.jp/content/001268821.pdf>

とともに、自信や誇りを持って学校生活において自己実現を図ることができるよう、必要な環境整備を進める。」と述べられている。石川県や金沢市でも、ぜひこの項目についての検討を本格的に開始してもらえよう、働きかけていきたいと考えている。

外国籍の子どもたちが充実した人生を歩めるようになるための様々な支援は、今後の多文化共生社会の推進ということを考えればさらに公的な充実が求められることであり、この活動を通して調査や活動を進めることで、それらの目的に少しでも貢献したいと考えている。

